

吹田市総合計画基本構想(素案)に係る市民意見一覧

9名から27件意見提出あり
年代内訳(50代5名:60代2名:70代2名)

NO	ページ	項目	意見及び質問
1	24	まちの将来像 「住」「働」「楽」が織り成す都市魅力を発信し、人をひきつけるまち	「職住近接」「職遊融合」「住遊近在」はただの漢字遊びですか？
2	24	まちの将来像 市民主体のコミュニティ運営が確立されたまち	『特に、本市の特徴である市内の各地域の固有の特色を市の魅力向上に結びつけるためには、地域の実情に応じたきめ細かなまちづくりを進めることが重要です。』の箇所の意味が分からないという趣旨の意見
3	24	まちの将来像 まちの未来を拓く人を育むまち	『「安心して、子どもを育てる環境」、「子どもが自立するまでの成長を応援する環境」、「社会とつながり自己実現ができる環境」など生涯をとおして学び・育む環境が備わったまちを目指します。』とありますが、 <u>市民福祉のはどこへいったのですか？</u>
4	25	まちの将来像	希望なり、展望なり、ですから、いい事しか書かない、残せないのは仕方ありません。 「こういう未来の為にみんないっしょにがんばろう」という姿は大切だと思います。ただそこに行きつく為には過去に(あるいは地域性に)縛られず、そこに住む人たちが、自分達の「暮らし」「人生」をどう考え、求めるかだと思います。それが地域(性)でしょう...？ 停滞した今をどうしたら打ち破れるか。これから自分達で自分達の「まち」(地域)を作っていく。ただし一部の人のものではなく、このような構想に則ってです。 今、吹田市に限らず日本全体が『生きなおし』に来ているのだと思います。誰かをあてにしたり、待つのもなく、自分自身で一步踏み出す、踏み出せる構想にして下さい。 「人」を大事にするとはどういうことかとことん掘り下げていきましょう。
5	25	まちの将来像	「ゆりかごから墓場まで」ではなく、「生まれる前から死んだ後も」だと思います。 今後、行政の過疎地と呼ばれている地域をどのように活性化させていくの[]綺麗事をならべても実感が湧きません。 確かに今後の未来像です。だからこそ、現実を見極める『目』が必要です。行政がどこまで市民に寄り添えるかです。もちろん市民の自立も欠かせませ[せん。]それをどうもっていくかが今問われているのでしょうか？ 「人」の在様を[書いて]いるとは思いますが、ちょっと、抽象的でわかりません。
6	26	都市空間	乱立するマンション群の中で、似た風景しかないですね。歯止めができますか。
7	30	ルート 一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合う平和なまち	平和の尊さ やはり命でしょう。命あってこそです。
8	30	ルート 一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合う平和なまち	『一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合う平和なまち』について、『一人ひとりの「権利」とさまざまな文化を認め合う平和なまち』の方がよいと思います。(この基本構想において、「一人ひと[り]の」人権よりも権利の方...)

吹田市総合計画基本構想(素案)に係る市民意見一覧

9名から27件意見提出あり
年代内訳(50代5名:60代2名:70代2名)

NO	ページ	項目	意見及び質問
9	30	ルート 一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合う平和なまち ルート ともにつながり未来を拓く人づくりを進めるまち	吹田には市立博物館がある、不要との声もあるようですが資料館ではなく整った博物館施設が吹田にあることを誇りにすべきだと思う。 博物館の敷地は隣接する紫金山公園と共に吹田の自然と歴史の宝庫でもある、次の世代に必ず残すべきものだと思う。 現在市民委員による展示など活性化に取り組み市民への認知拡大、集客増を推進しているが、手狭でもあるので収蔵庫、展示室の増設などを図り、美術展示等の機能を持たば集客増、入場料収入等も見込め活性化につながる。吹田で盛んなまち歩きなどで歴史を歩いて博物館へのコース等に取り組みばまちおこしにもつながると思う。
10	30	ルート 誰もが住み慣れた地域で支え合い健康で安心して暮らせる福祉のまち ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち	私は障がい当事者です。 生まれ故郷に次いで吹田のまちが大好きです。 市長の「非常事態宣言」を受け、事業見直しで障がい者・高齢者施策が削減され、地域で暮らす私たち障がい者は将来にとっても不安を感じています。 「基本構想素案」にも謳われているように、子どもや障がい者、高齢者が住み慣れた地域で暮らすことが出来るように、施策(福祉サービス)の充実、差別のない社会、また、社会参加・活動出来るようバリアフリーなまち、イコール誰もが安心して外出できるまち。 「吹田市」の姿を切に願っています。
11	30	ルート 誰もが住み慣れた地域で支え合い健康で安心して暮らせる福祉のまち	基本方針の2で、「誰もが住み慣れた地域で支え合い健康で安心して暮らせる福祉のまち」とあるが、現在、市を挙げてとりまわっている「維新プロジェクト」と矛盾するのではないかと思います。 これまで「福祉のまち吹田」「子育てするなら吹田」と言われてきたにもかかわらず、「維新プロジェクト」により、制度は他市並みにするという方針で、長年にわたり吹田市独自で行われてきた、さまざまな政策が廃止や縮小をされたり、公立保育園の民営化が推進されたりしています。「維新プロジェクト」の推進は、基本方針と矛盾しており納得がいきません。 また、今後この基本構想が、市民をどう巻き込んで作成されていくのかわかりませんが、当事者参加が補償されるべきではないかと考えます。 国連の障害者権利条約のスローガンに「私たちぬきに私たちのことを決めないで」というフレーズがありますが、市民の声を反映していない構想では問題です。 基本姿勢1の中に、構想作成そのものに障害者や高齢者、子ども、女性など項目ごとに当事者や当事者団体の参加を補償しその意見を反映したものにすべきだと考えます。
12	30	ルート 誰もが住み慣れた地域で支え合い健康で安心して暮らせる福祉のまち ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち	様々な人が住んでいるという視点、 バリアフリーの視点を忘れないようにして下さい。 弱い立場の人が、住みよい街、エレベーター、スロープなどは、もとより、ピクトグラムや、絵文字なども整備する必要があります。 そうすると、たくさんの人にとって使いやすいものになります。
13	30	ルート 健全で豊かな環境を守り引き継ぐまち ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち	毎日中之島公園を歩いて通勤しておりますが、気になることを一つ。 樹木も大きくなり季節ごとに花を咲かせ、癒される日々です。 しかしながら、カラスが木の枝を落とし放題で、歩いていても突然上から落ちてくるなど、びっくりします。私が感じるところでは、ナンキンハゼの木が最も被害を受けているのではないのでしょうか。 そして、春には桜並木が美しく、梅の花も紅白で花を咲かせてくれますが、桜の枝も落ちているこのもしばしば。 吹田市として、公園事業は人々の心を和ませ、緑の多い市政都市として、子供たちを始めとする親子世代に渡り、故郷として心に残る、地域の公園を運営していただきたいと思います。 まずは、カラスの生態等、私もよく勉強しておりませんが、彼らから公園の木々を守る何か手立てはないのか、考えて頂ければ幸いです。

吹田市総合計画基本構想(素案)に係る市民意見一覧

9名から27件意見提出あり
年代内訳(50代5名:60代2名:70代2名)

NO	ページ	項目	意見及び質問
14	30	ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち	市民の健康と生きがいにつながる施策としてアジェンダ21が見直し目標として検討している歩きたくなるまち作りを推進し、歴史や名所、美観、観光につながる場所や緑地整備を図り、歩きたくなる安心安全のまちづくりができるコースの整備が必要と思う。 これ等の街歩きのコースにトイレの設置が必要である。北千里の第2緑地はNPOが整備、管理をしているが元気な女性が数多く参加されず、トイレに困るため1度は参加されてもつ方も多い以前わ藤白荘のトイレを借りたりしていたが今は取り壊され手、戸建て住宅建設がなされている。第2緑地には市民の自然遊歩道もあるのでこの土地に隣接する場所にトイレを作ることは出来ると思う。
15	30	ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち	吹田市の北部には緑が多いが南部には少ない、江坂地区など、車のための道路づくりが優先され街路樹への配慮がない。中、低木樹でも各道路や水路に街路樹を配することでみどりの増加だけではなく歩きたくなるまちづくりにもつながると思う。
16	30	ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち	脱、車社会を目指して生活ライフを変えることは環境への次のステップだと思う。2車線のところを1車線にして余った土地にバリアフリーの歩道や低木、花、草等のみどりのネットワークにすれば生物多様性にもつながると思う。水路の整備にも同じことが言える。
17	30	ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち	数多い吹田のNPO、ボランティア団体の連携や育成が大切だと思う。市は緑地や公園の整備、市民向けの施設の管理をこれら団体に委託しているが、受け持った団体が私物化することのないよう、複数団体の協働や分担作業なども考慮してみてはと思う。
18	30	提案概要	(現状と課題) 吹田市内の鉄道等の交通は、各種の交通機関が独自で配置されているため、相互利用の不便なところがある。 そのため、モノレール、バス、地下鉄などと連絡させ、ネットワーク化が必要であると考え。 (留意点) 鉄道等は、人の往來を円滑・利便性を高めるため、鉄道系を主にして相互連携し、ネット上にする。 バスはモノレールを補完するもの 特に東西方向への往來の円滑化 高齢者が利用しやすいこと (提案と期待できる成果) 吹田市のシンボルである万博記念公園と市民の健康の源である万博スポーツ施設への通行の円滑化を図る必要があると思う。 万博公園の観光化、万博スポーツ施設の利用促進 大学文教施設への通学の円滑化 商業・産業の発展に資する公共交通
19	30	具体的提案	地下鉄今里筋線の井高野駅からJR岸辺駅までの延長、JR岸辺駅および阪急正雀駅と連絡し、吹田市の公共交通と連携する。 大阪地下鉄、阪急電車、JRと連携することができる。 大阪方面への交通の利便性の向上が図れる。 地下鉄御堂筋線・江坂駅に駅前広場、江坂公園の北西部に交通広場を設け、モノレール駅とバスの停留所を設ける 交通結節点の総合的整備が可能 (モノレールは、江坂駅、(仮称)南吹田駅付近、吹田駅付近、岸辺駅付近を經由し万博記念公園駅までの経路を想定した提案) ペDESTリアンデッキおよび歩道は、駅間における歩行者通路の円滑化のため、江坂駅、JR吹田駅、JR岸辺駅、万博スポーツ施設および万博公園駅に設置する。 JR吹田付近には、JR鉄道への乗り換え通勤・通学さらに買い物客のための自動車駐車を設置する。これは、当付近への集客化、大阪への自動車通勤による交通渋滞防止、違法駐車を防止することができる。

吹田市総合計画基本構想(素案)に係る市民意見一覧

9名から27件意見提出あり
年代内訳(50代5名:60代2名:70代2名)

NO	ページ	項目	意見及び質問
20	31	ルート 支え合いと備えで安全に暮らせるまち	吹田の災害対策として都市公園などに防災施設としてかまどベンチ、非常用マンホールトイレ、太陽光街灯等を整備しているが、これらを市民に広報、活用がされていない。 周知、活用体験が必要ではないか。
21	31	ルート 人が集い、企業を育む、都市魅力あふれるまち	吹田には古い歴史や文化があるが市外からの観光者などの集客に結び付くようなインパクトに欠ける。 NPO等の知恵も借りてこれ等の場所の整備、訪れて観るだけでなく学びの要素も取り入れ他観光地の創造に努め、ボランティアの協力等で案内や地元物産販売など出来ないだろうか。 こういった場所を繋ぐ歩きたくない安心安全なネットワーク街路があれば吹田に人が集まり活性化が出来ると思う。
22	32	基本方針とまちのイメージ	置いてほしい図書等を紙に書いて受付で渡せると良い
23	34	ベース 市民が活躍できるまちの仕組みづくりを進めます	市民が活躍できるまちについて 吹田では市民活動が活発で、それは吹田の宝物であるといえます、市民活動を育成し活用することは市の財政にも関わり、市民の健康を向上させ医療費の削減にもつながり市職員の人件費の削減にもつながる等、波及効果は大きいと思う。 市民活動の支援としては南千里の市民活動センターの運営が正しく有効に遂行されるよう行政の指導が必要と思う。 また南千里だけではなく市の南部にも同じような施設が必要と思われる。元の市民会館の跡地を不意打ちのように売却してしまったけれども買い戻してでも市民活動のための施設を設けるべきだと思う。
24	34	ベース 市民が活躍できるまちの仕組みづくりを進めます	自律 自立ではなくあえての自律ですか
25	34	ベース 持続可能なまちづくりのための行政経営を確立します	行政経営の分野について、何らかの数値なり、過去の報告ができることがありますか。「公務員」と「民間人」の格差(それこそ価値観)は広がる一方では?
26		その他	2007発行「ダイヤモンド誌」(安心して住める街)をみると吹田市はあらゆる面で大阪府下で上位となっており、全国的にみても上位であった。5年後(今の)資料をみると多分絶対的にも相対的にもランクは下がっていると思はれる。 ニュータウンに予算が集まり、旧市内は、よくなっていない。 吹田の千里ニュータウン地区に入ると、これが同じ町かと言うほどすばらしい環境にある。 しかもこのニュータウンも老令化したので、又、更に予算を執行して活性化を計ることになる。 旧市内にも活性化を求めてお金を注入すべきであります。
27		その他	各章や各タイトルの目標には、数字を盛り込んだり数字に置き換えて計画をおさえる。5W1Hの考え方で計画を作成して示す。

集計 (男性7名 女性2名)
9名 (50代 5名、60代 2名、70代 2名)

[]内は提出意見が途切れていたもので、事務局で補完した内容です。

総合計画基本構想(素案)に係る職員意見一覧

10名から119件意見提出あり

NO	頁	行	項 目	意見及び質問
1	3	4	はじめに(総合計画の策定にあたって)	4行目の「市民生活や市民意識」と5行目の「市民生活」との意味の違いは。
2	3	13		13行目の「行政等」の「等」は具体的に何を意味するのか。
3	3	23		23行目の「吹田駅前再開発完了(昭和55年(1980年))」と28行目の「吹田駅北口地区再開発完了(平成8年(1996年))」は、表の他の項目に比べて小さい出来事のような印象がある。
4	3	36		36行目の「海外拠点化」という表現はするものなのか。
5	3	表		表中の年の表記で西暦和暦併記の箇所と併記でない箇所が混在している、また阪神淡路大震災には年の表記があるが東日本大震災には年の表記がない。
6	4	2	吹田2020ロードマップとは	2行目の「ロードマップとは総合計画の目標に向けた道筋を示すものです。」と5行目の「吹田市総合計画は2020年の将来像に向けたまちづくりのロードマップです。」文章が矛盾している。また、7ページの「総合計画の位置づけと役割」の内容(計画です、指針です、指標です)とも整合がとれていない。
7	5	—	目次	「基本計画の構成と見方」の句読点の有無、また有の場合は使用箇所を統一した方がよい。
8	7	2	序論 第1章総合計画の位置づけと役割	2行目の「市民生活に関わるあらゆる個別計画や事業」は、国や府の計画・事業も含まれるように読めるが、そうでないなら、市の計画・事業であることをわかるようにすべき。
9	7			6行目「…まちづくりを進めて行く…」→「…まちづくりを進めていく…」
10	8	11	第2章計画の構成と期間	11行目の「総合計画は、以下のとおり計画期間を設定します。」の主語が「計画」はおかしい。
11	8	図		表「計画の期間」の和暦には西暦を併記すべき。
12	8		第2章計画の構成と期間 1計画の構成	5行目(1)基本構想の説明箇所は、「本市がめざすまちの将来像」等めざすべき姿であることを記載した方がよい。
13	8		2計画の期間	計画の期間の図で、平成26年度以降は実施計画の計画期間が3年と読めるが、平成18年度からは計画期間は5年となっているのでは。
14	9	5	第3章計画策定の背景 1吹田市の特徴 (1)地理的・自然的特徴	5行目の「を占めています」は何かのうち何%というときに使用する言葉で、適切な表現ではない。
15	9	10	(2)歴史的特徴	10行目の「育まれてきましたが」で文章が長いので区切るべき。
16	9	16		16行目の「(市)制が施行され、」は「(市)制を施行し、」の方が適切である。
17	9	19		19行目の「進むとともに、」は「進み、」の方が適切である。
18	10	5	(3)社会的特徴 ①交通の利便性	5行目の「多くの鉄道駅」は、実際の駅の数を記載すべき。

総合計画基本構想(素案)に係る職員意見一覧

10名から119件意見提出あり

NO	頁	行	項目	意見及び質問
19	10	8	(3)社会的特徴 ①交通の利便性	8行目の「また、大阪都心部などへの通勤・通学など日常的な市民生活の利便性にも優れており、本市の住宅地としての魅力を高めています。」の主語がわからないので、「優れていることが・・・高めています。」または「・・・住宅地としての魅力も非常に高いまちです。」としてはどうか。
20	10	11	②充実した文化・学術・研究環境	11行目の「これまでのまちづくりの取組により、日本万国博覧会の会場跡地に、みどりに包まれた広域公園が整備され」は市が万博跡地を整備したように読める。
21	10	15		15行目の「また、市域北部は関西イノベーション国際戦略総合特区(平成23年(2011年)12月)に指定され、産学官の連携など学術・研究環境のさらなる充実を図っています。」の主語、述語が繋がっていない。
22	10	16		16行目の「総合特区(平成23年(2011年)12月)に指定され、」の年表示の位置が不適切である。
23	10		第3章計画策定の背景 1吹田市の特徴 (3)社会的特徴 ①交通の利便性	10ページの図(地図)において、モノレール彩都線が阪大病院前で終点のように見えるので、修正をした方がよい。
24	11	9	④複合都市	9行目の「江坂駅周辺では大阪都市圏北部の拠点となる」と27ページ26行目の「北大阪の副都心的役割を担う江坂」との表現が異なっている。
25	12	4	⑤地域ごとに異なる特色	4行目の「市域南部には、大阪市に隣接する立地条件の良さなどを背景に、工業や商業などの産業機能の集積がみられます。」と27ページ26行目の「生産・流通機能が集積する市西部・南部」と表現の整合をとることが必要で、西部についても記載すべき。
26	12	6		6行目の「新たなまちづくりが始まっています。」は他人事みたいな表現なので「・・・始めています。」とするべき。
27	14	表	3社会経済状況の変化 (1)安心安全の意識の高まり	表が吹田市のデータでないことが一目見てわかるように、題名の先頭に「全国の」をつけるべき。
28	14			9行目「SARS」、「パンデミック」など略語や一般的なでない言葉は説明が必要である。
29	15	11	(2)循環型社会への移行 (地球環境問題の深刻化)	11行目の「エネルギーを適正に利用できる低炭素社会」の意味がわからないので、「エネルギーの適正な利用や交通機関の温暖化対策など」に修正するべき。
30	15			1行目と8行目の「循環型社会」という表現に対して、内容・グラフは地球環境問題全体(低炭素社会構築の必要性)に関する記載となっている。「循環型社会」という言葉は主にゴミ問題を連想させるので「低炭素社会への転換」にするなど、文言を整理したほうが良いのでは。 3行目「自然環境負荷」よりも「環境負荷」が一般的な表現と思う。 また温室効果ガスのグラフを掲載することから考えても「地球温暖化」の記載があったほうが良いのでは。 具体の修正箇所は 1行目「循環型社会への移行」→「低炭素社会への転換」 3行目「自然環境負荷の増大やエネルギーの枯渇、」→「環境負荷の増大や地球温暖化、エネルギーの枯渇、」 8行目「循環型社会」→「低炭素社会」

総合計画基本構想(素案)に係る職員意見一覧

10名から119件意見提出あり

NO	頁	行	項目	意見及び質問
31	15		(2)循環型社会への移行 (地球環境問題の深刻化)	グラフ【吹田市及び日本の温室効果ガス排出量の推移】に関して、吹田市のH22年度分のデータが誤っている。国の積算時期に比較して、本市を含む自治体の積算時期はかなり遅れる。自治体が積算する際には、統計データを活用しなければならず、その公表が遅れるためである。現在は、平成21年度分までしか積算できていない。よって、平成21年度データまでを掲載していただくか、吹田市の平成22年度データをグラフから削除していただくかのどちらかで対応していただきたい。
32	16	5	(3)社会の多様性の尊重 (ライフスタイルの変化)	5行目の「ノーマライゼーション※」の用語説明の構成を26ページと同じくページ下にするべき。
33	16	12		12行目の「また、共働き世帯は年々増加傾向にあり、専業主婦世帯を上回っています(全国動向)。」とあるが吹田市の状況はどうなのか。違うなら【全国の動向】に記載すべき。
34	16	表		表【日本における幸福度の推移】の出典元の「幸福度に関する研究会報告」はこの機関なのか。内閣府の機関ならそれがわかるように記載すべき。
35	16			5行目「ノーマライゼーション」の用語説明は用語のすぐ下にあるが、26ページ、27ページでは用語説明を脚注にしており、どちらかに統一すべき。
36	16			上のグラフ【日本における幸福度の推移】の出典元は「内閣府・幸福度に関する・・・」等とし、行政が関わる研究会であることを示した方がよい。
37	18	1	(5)地方分権の進展と新たな公の台頭	1行目「地方分権の進展と新たな公の台頭」という表現をしているが、下の説明文からは「台頭」とは読み取れず、適切な表現ではない。また「新たな公」は「」をつけるべき。
38	18	5		5行目の「地域主権戦略会議」や表【地方分権・地域主権の推進に関する国の検討の流れ】の「地方分権改革推進委員会」は国の検討体制であり、記載する必要はない。
39	18	11		11行目に「行財政改革」と「市民と行政の適切な役割分担によるまちづくり」が並列で記載されていることに違和感を感じる
40	18	11		11行目の「市民と行政の適切な役割分担によるまちづくり」と13行目の「また、一方で、・・・」以下の文章は関連しないのか。
41	18	13		13行目の「また、一方で、人口構造の変化、市民ニーズの多様化などを背景に、「公」の領域が拡大しており、公共的価値を含む「私」の領域や「公」と「私」の中間的な領域も「新たな公」として活動領域に加わっています。担い手も、これまで以上に多様な主体野参画が期待されます。」の意味がわかりにくい。今まで行政が主として担ってきたこと、市民や中間支援団体も担うようになってきたという担い手の多様化のことを言いたいのか。行政が担うべきことが増えたと読み違いされる恐れがある。
42	18			下のグラフの最下段の出典元の表現は、他の出典と統一して「です。」は削除した方がよい。
43	19	1	(6)ICTがもたらす産業・社会の変革	1行目の「ICTがもたらす産業・社会の変革」より21ページの「高度情報化社会の進展」の表現の方がよい。
44	19	3		3行目の「ツイッター」という言葉は登録商標ではないか。
45	19	4		4行目の「だれでも」は誰をさしているのか。

総合計画基本構想(素案)に係る職員意見一覧

10名から119件意見提出あり

NO	頁	行	項 目	意見及び質問
46	19	8	(6)ICTがもたらす産業・社会の変革	8行目の「提供される」は「提供する」の方が適切では。
47	19	10		10行目の「情報技術」は「情報通信技術」の方が適切では。
48	19	12		12行目の「情報格差(デジタルデバイド)が懸念されています。」は「情報格差(デジタルデバイド)の拡大が懸念されています。」にした方が適切では。
49	19			1行目「ICT」等、略語や一般的でない言葉は説明が必要である。
50	19			3行目「ツイッター」という単語は、市の計画に使って支障のない単語なのか疑問である。
51	20	1	(7)経済及び雇用環境の悪化	1行目の「経済及び雇用環境の悪化」としたの説明文との整合がとれていないのでは。
52	20	5		5行目の「非正規雇用の割合が増える」と「不安定な雇用が増えてきています」は同じ意味ではないか。
53	20	10		10行目の「産業に魅力のあるまち」と24ページの「産業活動にととの魅力・・・をバランスよく内包する都市」は同じ意味ではないか。」
54	20			20ページのグラフにおいて、表題が「非正規雇用者数の推移」なのに、グラフの縦軸の単位が%となっており、誤解を招く恐れがあるので、修正をした方がよい。
55	21	—	計画策定の背景	「吹田市の特徴」は10ページから12ページまでの「社会的特徴」のみが記載されているが、このタイトルとの整合は図れているのか。
56	21	—		「市民意識」はどこを根拠に示しているのか。13ページの「市民意識」の内容との整合は図れているのか。11項目の内容に大小があったり、なぜこの順番なのかよくわからない。 ⑦の「歩行者にとっての道路の安全性」の「道路」の意味がわからない。
57	21	—		「社会経済状況の変化」の⑥「高度情報化社会の進展」のみ19ページの「ICTがもたらす産業・社会の変革」と対応していないがどうなのか。 (「高度情報化社会の進展」の方が適切だと思う)
58	21			計画策定の背景で、「吹田市の特徴」、「社会経済状況の変化」は、21ページより前に述べてきたことをまとめているが、「市民意識」については市民アンケートの結果を抜粋しているものでもなく、どこから持ってきているのか不明である。
59	21			「社会経済状況の変化」の⑥「高度情報化社会の進展」とありますが、19ページでは「ICTがもたらす産業・社会の変革」とあり、どちらかにあわせるべき。
60	21			21ページ図中及び22ページの「まちづくりの主要課題」の中で、「環境」という言葉が3つ出てきている。「場」「雰囲気」「地域」「制度の整備」「機会の充実」という意味と、「環境問題」の区別ができないか。
61	22	8	4. まちづくりの主要課題 (2)次代を担う子どもが成長する環境づくり	8行目の「遅れて進んでいますが、」は表現をもう少し工夫すべき。
62	22	21		21行目の「市民」と「人々」の表現は統一すべき。「多様性」は「多様化」の方が適切では。

総合計画基本構想(素案)に係る職員意見一覧

10名から119件意見提出あり

NO	頁	行	項 目	意見及び質問
63	24	10	基本構想 第1章 まちの将来像 「住」「働」「楽」が織り成す都市魅力 を発信し、人をひきつけるまち	10行目の「この可能性を引き出すには、柔軟な「発想力」や豊かな「創造力」、粘り強く取り組む「推進力」などが必要であり、これらはどれも、人を介して引き出すことができるものです。」とあるが、可能性を引き出すための力を人を介して引き出すということか。また誰の力を誰が引き出すのか。
64	24	18	市民主体のコミュニティ運営が確立されたまち	18行目の「政策」とあるが、後ろの記述からすると「まちづくり」の方が適切ではないか。
65	24	21		21行目の「市民が地域のまちづくりに主体的に関わり、自ら考え行動する自立した地域運営ができる仕組みを市民と行政の協働で構築し、」の主語は不明、意味もわかりにくい。
66	24	26	まちの未来を拓く人を育むまち	26行目の「価値観が多様化かつ複雑化する成熟社会」とあるが、22ページ21行目では「成熟社会の到来は市民の価値観の多様性をもちたらし」とあり、「複雑化」という表現はどこにも出てこないが。
67	24	26		26行目の「持続し発展させる」と26ページ7行目の「持続的に発展していく」との表現の整合性はとれているのか。「持続的に発展していく」の方がわかりやすい。
68	25	4		4行目の「人と人との関わり」「多世代交流」など個性や違いを認め合う「思いやり」と「やさしさ」による関係が育つ環境づくり」とあるがわかりにくい。また、「人と人との関わり」と「多世代交流」は環境づくりの例なのか。
69	25	8		8行目の「将来像の実現に向けた道筋(ルート)を示す基本方針を次のとおりとします。」とその下の図は、「第3章将来像への基本方針」につながるものと思うが、間に第2章が入ってしまい、わかりにくいものとなっている。35ページにするとかできないか。 8行目の「将来像の実現に向けた道筋(ルート)を示す基本方針を次のとおりとします。」と30ページ2行目の「めざす将来像を実現するため、次の7つをまちづくりの基本方針として定めます。」が重複している。
70	25		第1章 まちの将来像	6行目「本市の将来像」と図中「まちの将来像」を混在させるより統一した方がよい。
71	25			「ロードマップ」としていることから、「基本方針」や「基本姿勢」を「ルート」や「ベース」と言い換えていると思うが、「将来像」と「ルート」、「エンジン」の関係の説明を入れた方がよい。また、言い換えるのなら「まちの将来像」も「ゴール」とかにした方がよいのではないか。関係性については、4ページ「吹田2020ロードマップとは」で説明してもいいのでは。
72	25			「ルート」という表現では、目標に向かって分野ごとに設定された別々の道筋を歩むような印象を受ける。各分野の糸がより合わさって一本の道筋ができる、というイメージを表現してほしい。
73	25			25ページ概念図からは、基本方針・基本姿勢等の関係性が分かりにくい。
74	25			基本姿勢が基本方針を進めるための(全体にかかる)ベースとなるのであれば、先に基本姿勢を述べたほうが良いのでは。

NO	頁	行	項目	意見及び質問
75	26	3	第2章 人口と都市空間 1人口	3行目の「本市の将来人口は、平成32年(2020年)頃までは概ね現状維持の状態が続き、その後は人口減少が進むものと見込まれます。」として35万4562人と予想し、10行目の「このため、本市の魅力を内外にアピールするとともに、次世代を育む環境づくりや良質な住まいの維持及び誘導など、住みたいまち・住み続けたいまちとして選ばれる様々な施策を推進し、定住化の向上を図ることにより、本計画の目標年度である平成32年度(2020年度)の本市の将来人口を概ね35万5千人と設定します。」とあるが、35万4千と35万5千でほとんど変わらないが、少しだけ施策を推進し努力するという意味なのか。
76	26	24	2都市空間の将来像 (1)地域ごとの特徴ある拠点市街地の整備	24行目の「商業機能の充実に努めるJR吹田駅周辺、阪急吹田駅周辺」とあるが、阪急吹田駅周辺もJR吹田駅周辺とは別途に商業機能の充実に努めているのか。
77	27	10	(3)人と自然の共生空間の整備・保全	10行目の「邸宅」は「住宅」のことか。
78	27	16	(4)地域の特性を生かした魅力ある都市空間の形成	16行目の「住宅地においては、市民の多様なライフスタイルに対応し、地域の歴史的背景や立地特性を生かした集合住宅地や戸建て住宅地など多様な住宅地を供給する環境の整備・保全を進めます。」とあるが「住宅地において・・・住宅地を供給する環境の整備・保全を進める」というのは意味がよくわからない。
79	27	23		23行目の「賑わいと憩いを醸し出す」とあるが賑わいや憩いは醸し出されるようなものか。
80	28	26	吹田市の将来都市空間	阪急吹田駅周辺に関する26ページでの説明と現状とのギャップが気になる。
81	30	6	第3章将来像への基本方針 ルートⅠ:一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合う平和なまち	6行目の「多様な文化が生まれ生きがいのあるまち」とあるが、「多文化」と「生きがい」は関係が深いものか。「生きがい」を入れるなら4行目の「希望と誇り」の後に入れる方がしっくりくる。ルートⅡにも11行目に「生きがい」という表現が使用されているが、ルートⅠにも必要か。
82	30	9	ルートⅡ:誰もが住み慣れた地域で 支え合い健康で安心して 暮らせる福祉のまち	9行目の「子どもや障がい者、高齢者が、住み慣れた地域で暮らすことができる」と「すべての市民にとって安心して暮らし続けられる」とを別々に書かず、整理してわかりやすく書くべき。
83	30	14	ルートⅢ:ともにつながり未来を拓く 人づくりを進めるまち	14行目の「自主性・自立性が育まれるまち」は「自主性・自立性を育むことのできるまち」とするべき。
84	30	18	ルートⅣ:健全で豊かな環境を守り 引き継ぐまち	18行目の「健全で豊かな環境が、私たちの生存の基盤であることが強く認識され、それを前提とした社会や経済のあり方、及び新しい形の豊かさに対する共感が広がるまちをめざします。」の意味がわかりにくい。
85	31	3	ルートⅥ:支えあいと備えで安全に 暮らせるまち	3行目と5行目に「安心して暮らせるまち」が重複している。
86	31	7	ルートⅦ:人が集い、企業を育む、 都市魅力あふれるまち	7行目の「交通利便に優れ、文化と教養の薫り高いまち」という都市ポテンシャルの高さと、産学官が一体となって企業活動を支える環境」とあるが、唐突な感じがする。10ページの「社会的特徴」の「①交通の利便性」と「②充実した文化・学術・研究環境」を表しているのであれば、この表現を10ページにも書いておくべき。

総合計画基本構想(素案)に係る職員意見一覧

10名から119件意見提出あり

NO	頁	行	項 目	意見及び質問
87	31	10	ルートⅦ:人が集い、企業を育む、都市魅力あふれるまち	10行目の「誰もが笑顔で働き続ける環境が整い、ワーク・ライフ・バランスのとれた市民による賑わいが創出されるまち」とあるが、「労働環境」と「ワーク・ライフ・バランス」と「賑わい」を1つの文にまとめないといけないのか。バランスがとれていてこそ、暮らし、遊びも含めて都市が活性化するという意図はわかるが、「ワーク・ライフ・バランスのとれた市民による賑わい」の表現はわかりにくいし、違和感がある。
88	32		第4章基本方針とまちのイメージ(施策体系) Ⅰ-3 DV被害や女性に対する暴力がない男女共同参画社会になっています	「DV被害や女性に対する暴力がない」はⅠ-2の「まちのイメージ」に含まれる課題ではないか。
89	32		Ⅰ-5 国や地域の人との交流が育まれています	「国や地域の人との交流」という表現がわかりにくい。国際交流と地域コミュニティのことなのか。
90	32			「子どもや青少年が安心して安全に」の後に「生活し」を入れるべき。入れないと「子どもや青少年が安心して安全に成長する」という意味になってしまう。
91	32			Ⅲ-5の「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」とⅢ-6の「いつでも、どこでも、いつまでも」の「」の使い方を統一すべき。
92	32			Ⅰ-3とⅢ-6だけが「・・・社会になっています」となっており、統一感に欠けるので、「・・・しています」という市民が主語となった具体的な表現にするべき。例えばⅢ-6は「・・・スポーツに親しんでいます」など。
93	32		第4章基本方針とまちのイメージ(施策体系)	まちのイメージについては、各部で作成したものを持ち寄っているままになっているので、全体のバランスを考えて全部を取りまとめているところが、文言の調整等をする必要がある。
94	32		Ⅲ-5「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」生涯を通じて、主体的に学んでいます Ⅲ-6 すべての市民が「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる、生涯スポーツ社会になっています	Ⅲ-5「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」・・・とⅢ-6・・・「いつでも、どこでも、いつまでも」・・・は、カッコ書きをどちらかにあわせた方がよい。上下での統一性のなさは、目立つ。また、カッコで区切りが明確になるため、読点は必要ないと思う。ちなみに、19ページ4行目では「いつでも、どこでも、だれでも」になっている。
95	32			まちのイメージ(32. 33ページ)の中で「安心」という言葉を多用しすぎている。
96	33			33ページの「まちのイメージ」に賑わいのことはないが。
97	33			V-6、7、8とV-1は重複するので、「安心安全」「快適」の言葉を入れて整理をするべき。
98	33			VI-3の「火事(や事故)」の()は不要ではないか。
99	33		VI-3 備えと予防ができており火事(や事故)が減っています	「VI-3 備えと予防ができており火事(や事故)が減っています」は、他の「まちのイメージ」とのバランスを考えて、「備えと予防ができていて火事や事故が・・・」等とした方がよい。
100	34	2	第5章将来像実現に向けて ベースⅠ 市民が活躍できるまちの仕組みづくりを進めます 《市民自治》	2行目の「基本姿勢」、3行目の「ベース」、「エンジン」はすべて印象や意味合いが異なるので、統一すべき。
101	34	3		3行目の「まちの仕組みづくり」と4行目の「まちづくりの仕組みを構築」はこの表現でよいのか。
102	34	4		4行目の「自律した地域の自治が確立したまち」という表現がわかりにくい。

総合計画基本構想(素案)に係る職員意見一覧

10名から119件意見提出あり

NO	頁	行	項 目	意見及び質問
103	34	6	ベース I 市民が活躍できるまちの 仕組みづくりを進めます 《市民自治》	6行目の「多様なまちづくりに取り組む主体」は「まちづくりに取り組む多様な主体」の方がわかりやすい。
104	34	7		7行目の「それぞれの得意分野を生かし、連携・協力するさらなる協働」の「さらなる協働」とは何か、わかりにくい。例えば、「それぞれの得意分野を生かし、連携・協力することで、協働をさらに進める」という意味か。
105	34	7		7行目からの「さらなる協働を促進することにより」「新しい公共の創出による」「豊かな社会の形成」とは何か。
106	34			「利便性の向上が図られたサービス」とは、市民生活の利便性を向上するためのサービスのことなのか。それとも使いやすいサービスのことなのか。
107	34			25ページの図では、まず行政経営があつて、その後、市民参加という形になっているが、基本姿勢の I と II の関係を整理して整合を図るべき。
108	34		第5章将来像実現に向けて ベース I 市民が活躍できるまちの仕組みづくりを進めます《市民自治》	3行目などの「仕組み」と基本姿勢 I の1つ目の「仕組」が混在しているので、統一すべき。
109	34			3行目「ベース」とは何かの説明や「ルート」との関係性を示した方がよい。ちなみに、25ページの図では「ルートを進むエンジン」となっている。
110			意見	災害に強い街づくりに伴い、災害時に動ける職員体制の確立も必要。市民の防災意識も高まっているが、いざという時は職員が先頭に立たなければいけない。中心となる管理職が遠方に居住していると、有事の際に駆けつけるだけでも時間がかかる。また、公共交通機関等が麻痺した場合、駆けつけられない事態も想定されることから、市内もしくは隣接市に居住することを推奨することが必要ではないか。有能な職員を募集するため、居住に関しての縛りはないみたいだが、このままでは郷土愛的なものも希薄になる。このような意識では、災害時に動ける職員が確保できないのではないか。
111			意見	「吹田市総合計画 吹田2020ロードマップ」作成お疲れ様です。先の見通しがなかなかつきにくい昨今ですが、現時点で最高のものをつくりあげていただいたのではないかと考えています。特に手直し等の必要性は感じられません。引き続き、このまま充実した行政の遂行のため、携わる職員の一員として、わたしも微力ながら力添えしていきたいと思えます。
112			意見	日本の住生活を大きく変えたマンションや団地など大型コミュニティを核とした新しいライフスタイルが生まれるチャンスの時であり、吹田から全国へ先駆けて、新しい住まい方を発信し、住み続けたいまちとなるような施策を実施していく必要がある。
113			意見	万博にある太陽の塔は、大阪のシンボルのひとつであり、吹田市のマンホール蓋にそのデザインが採用され市民にも身近なものとなっており、吹田市のイメージキャラクターとして、すいたんから太陽の塔にチェンジ(著作権等問題も解決して)して、吹田市をもっと知ってもらえるようにすべき。吹田市民の愛着や誇りにつながり、ふるさと意識の向上が期待できると考える。【吹田といえばニュータウンと万博】
114			意見	安心安全の分野では、建築物の耐震化や消防設備などのハード整備以外にも、地域のコミュニティ能力の向上や柔軟な規制緩和などソフトの整備が重要である。
115			意見	地域コミュニティの発展のためには、住民が地域への興味や地域活動に積極的に参加できるような地域づくりが必要であり、財政状況が厳しい中、BID制度などを用いたエリアマネジメントを行い、地域が中心となって地域づくりが進められるような施策を期待する。

総合計画基本構想(素案)に係る職員意見一覧

10名から119件意見提出あり

NO	頁	行	項 目	意見及び質問
116			意見	総合計画の策定に当たっては市民アンケートを再度実施して市民意見を計画に反映すべき。有効数1353という数字は少なすぎるので、インターネットやSNS、学校教育の場などを利用するなどし広く意見募集(回収)すべき。
117			全体	全体的におおざっぱでわかりにくい。もう少し具体的に示す必要がある。
118			全体	「市民の計画」というより「行政のための計画」という印象を受けました。文章の書き方を工夫してはどうか(文字のフォントサイズは12以上、文字の間隔を広げる、明朝体よりゴシック体、長文にならないように図を増やす、ポテンシャルなどカタカナ英語の後ろに()を入れて日本語を入れる等)
119				本市の最上位の計画となるものなので、読点の打ち方、文言の統一などは最低限行い、外に示して恥ずかしくないものにしてほしい

集計 性別 10名(男性7名、女性2名、不明1名)
 年代 10名(20代2名 30代5名 40代2名)